学校だより　6月号

令和元年5月31日
横浜市立石川小学校
校長　寺園　淳

石川小学校スローガン
「みどり・ふれあい・すこやか　笑顔いっぱい　石川の子」

心を一つに　石川魂

校長　寺園　淳

５月21日、記録的な大雨が降る中、子どもたちはいつもと変わらず元気よく登校してきました。私は昇降口で子どもたちを迎えるのですが、子どもから「おはようございます。もうズボンがびしょびしょです。」「傘が壊れてしまいました。」など、学校に到着するまでの苦労を素直に伝えてきます。私は石川の子どもたちの素直で人懐っこいところがとても好きです。

そんな子どもたちは令和最初の運動会に向けて「心を一つに　石川魂　仲間を信じて　笑顔のゴールへつき進め！」を合い言葉に一生懸命に練習に取り組んできました。練習は５月の連休明けより本格的に進みました。子どもたちの演技をより良いものにしようと担任の細かな指導が続きます。中でも私が感心したのはラジオ体操についての取組でした。ラジオ体操は保護者や地域の皆様の多くが経験し、誰もができる体操です。近年、その効果が見直されてもいます。そのラジオ体操を正しく行うことはなかなか難しいことです。まず石川小の教員は自分たちが正しい動きができるように研修を行いました。次に全校の手本となる運動委員会の子どもたちに動きを指導しました。委員会の子どもたちは、休み時間を利用して繰り返し練習に励みました。運動会が間近に迫った日、練習場所に私は呼ばれました。子どもたちが私に動きを見てほしいということでした。子どもたちは校長の前で体操をするので、少し緊張しているようにも見えます。音楽が流れ、ラジオ体操が進んでいきます。その動きはポイントをきちんと押さえた正しい動きになっていました。委員会の子どもたちに「これならば全校の手本になれます。本番も期待しています。」と伝えると、うれしそうな笑顔を見せていました。

運動会当日。真夏を思わせるような天候の中、子どもたちは練習の成果を十分に発揮しようと真剣に取り組んでいました。演技では、どの学年もワンランク上を目指す取り組みになっていました。低学年ではダンスだけではなく、表現運動を取り入れ、変化をつけていました。中学年のミルクムナリエイサーは、腰を低く落とし、ゆったりと動くことで高学年のレベルを目指していました。高学年は今年もソーラン節に取り組み、そのエンディングで見せるやぐらを成功させるために慎重に練習を重ねていました。特に女子が作るやぐらは初めのうち、なかなか安定しませんでした。その様子を見て担任も「別の技に変更することも一つの方法だよ。」と声をかけましたが、子どもたちはその言葉をバネにするかのように、技を完成させるために今まで以上に熱心に取り組みました。互いに声を掛け合い、力を合わせ、本番では立派なやぐらを完成させました。一人ひとりの子どもが自分のもっている力を十分に発揮したすてきな運動会でした。

当日は教職員全員がミニプログラムを身につけました。これは用務員が自主的に作ってくれたものです。この小さな気配りが「石川魂」の原動力になっていると考えます。これからも子どもの自尊感情を育むために教職員一同、研鑽を重ねてまいります。今後とも保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。